分野	科目名	配当年次	開講期
専門基礎分野	看護の視点で視る人体	１年次	後期

単位数	時間	担当教員	実務経験の有無
１単位 （30 時間）	30 時間	外山　　忍　　専任教員	有

授業の概要	解剖生理学や病理学の知識を基にして、看護の視点から人間のからだといのちをみつめ、健康を保つために生活を整える重要性を学ぶ。
到達目標	１．いのちの最小単位「細胞」の働きが理解できる。 ２．細胞の内部環境と外部環境の恒常性維持システムが理解できる。 ３．外部環境としての生活を健康的に整えることで、身体内部の回復のシステムが働きやすい条件を作ることが理解できる。

授業計画

№.	授業内容	授業方法	備考
1	いのちのしくみ １）いのちの歴史を知る ２）いのちの最小単位「細胞」組織、器官 ３）植物性器官と動物性器官	講義	
2 ～ 3	生命体内部の恒常性の維持システム 1)恒常性とは～日常生活を支えるからだのしくみ、はたらき 恒常性維持のための流通機構 恒常性維持のための調節機構-神経性調節 恒常性維持のための調節機構-液性調節 2)細胞レベルと個体レベルの２つの代謝（摂取―自己化―排出）	講義	
4 ～ 8	日常生活行動から見たからだのしくみとはたらき ～細胞の生命活動を支える外部環境 １）息をする（呼吸のしくみ） ２）生きる　（生命維持の原動力） ３）食べる（食行動と消化・吸収） ４）出す（排泄行動） ５）動く（運動のしくみ） ６）お風呂に入る（清潔行動） ７）眠る（身体のリズム） ８）見る・聞く・におう・味わう・痛む（感覚のしくみ）	ジグソーグループワーク	
9 ～ １５	巧妙な身体のしくみが病気という現象を生む。 ・生活の送り方が原因で起こる病気の細胞たちの壊れ方、異常事態への陥り方、人体全体に出る影響（症状・病状）を調べよう。 ・その悪影響から人体を護ろうとする回復のメカニズムと生活の処方箋を描こう。	グループワーク 発表	心筋梗塞 脳梗塞

評価	最終レポート評価　「看護の視点でみる人体を学び、看護を考える」１０点 「看護につながる解剖生理」から試験問題９０点 レポートと試験を合わせて６０点以上で履修となる。
参考文献	金井　一薫：新版　ナイチンゲール看護論・入門. 現代社. 2019. 菱沼典子:看護につなげる形態機能学. メヂカルフレンド社. 2012.
備考	解剖生理学・病理学の教科書も使用する。